



企業の力が中山間地域の課題解決につながる新たな取り組み
(株)ジオコスが企画運営をする『耕隆inマイファーム』事業が、おいでん・さんそんセンターの協力を受けてスタートしました。旭地区で耕作放棄地や農業の担い手不足などの課題を抱える伊熊宮農クラブと、農業による社員研修の新規導入を図る企業のMan to Man(株)(名古屋市中)が、つながり、この度第一回目の実施を迎えます。こちらは、「市民発！まちづくりシン展事業」の実施事業であり、今年4月に豊田市の地域おこし協力隊として採用された坂部が、地元との調整やプログラム提案などのコーディネートを行い実施に至りました。

8月23日(日)は、伊熊町の農場にてMan to Man(株)の社員から有志8名が、伊熊宮農クラブの指導を受けながら農作業や農場整備などを行いました。半日かけ約4畝400㎡の農場にダイコン、ニンジン、小松菜、春菊、ハクサイ、ブロッコリーなど秋野菜の作付けを行いました。もともと水田のた



(上) 苗の定植作業
(右) 堆肥の運搬(左) 楽しく作業されていました



おいでん・さんそん
センター



地域おこし協力隊 坂部

協力

Man to Man(株)



(株)ジオコス



伊熊宮農クラブ

市民発！まちづくりシン展事業 『耕隆inマイファーム』事業スタート



旭

ASAHI

+

農山村全域

このコーナーでは、おいでん・さんそんセンターの活動を支える「ブラットホーム会議」のメンバーが、農山村で気に入っている「場所」「モノ」などについて語ります。

とよたの山里との初めての出会い、観光まちづくりの先進地であった足助。地域づくりの仕事をして首都圏から名古屋

農山村のここが

好きなんでSHOW

加藤 栄司 さん
一般社団法人地域問題研究所 主席研究員
愛知県交流居住センター事務局長

『若者を温かく見守る地域の方々最大の魅力です。』

今日の語りすと



推進をきつかけに、とよたの山里を行き来するようになり、おいでん・さんそんセンターの設立・運営にも携わるようになりました。今、多くの若者がU・Yターンし、地域に溶け込みながら新たな生活文化を培いつつあります。地域の方々はその若者を温かく見守り支えています。とよたの里山の最大の魅力はそんな人たちです。

人は常に豊かさを求めるから仕事は永遠に無くなりはないが、常に変化し続ける。20年前にauショップの店員やスマホアプリのデザイナーなどという仕事はなかった。一方、消えていった仕事も数知れない。今の仕事は20年後もあるとは限らないと言ふことである。

仕事は、豊かさの「ものさし」ともにある。人が何を求めているか、その「ものさし」如何で解決すべき課題も仕事も変わる。拡大し成長する社会から縮小し成熟する社会への移行に伴って豊かさの「ものさし」も変化し、課題解決のための仕事も変化する。

ミライの仕事の種が、おいでん・さんそんセンターの周りに散らばっている気がする。

「仕事」とは何か。そう問われた時あなたはこう答えるだろうか。自分なりに考えてみた。

「人が豊かに暮らすために課題を解決すること」が仕事であり、人は仕事をするために生きていると言ってもいいかもしれない。課題解決に対価を求める仕事を「ビジネス」、対価を求めない仕事を「務め、お役、CSR、ボランティア」、継続性を担保するために少しだけ対価を求める仕事は「ソーシャルビジネス」と自分流に分類している。家事や子育て、自給野菜づくりも務めであり、子どもは存在すること自体が務めであり仕事である。人を貶め、傷つける詐欺や兵器産業はもちろん仕事とは言えず、経済のからくりから利潤を生むことを仕事というか甚だ疑問である。

人は常に豊かさを求めるから仕事は永遠に無くなりはないが、常に変化し続ける。20年前にauショップの店員やスマホアプリのデザイナーなどという仕事はなかった。一方、消えていった仕事も数知れない。今の仕事は20年後もあるとは限らないと言ふことである。

おいでん・さんそんセンターHPに随時掲載！
<http://www.oiden-sanson.com/event/>

イベント情報

未来へのエコトーク2015

9月5日(土)『田舎暮らし』ヒビノケイコさん

時間 13:30~15:30(13:00開場)
【講演会終了後、講師と30分程度、お茶を飲みながら意見交換を予定しています】

場所 豊田市環境学習施設eco-T 2階 多目的室

料金 無料

定員 50名(要申込・先着順)

講師 ヒビノケイコさん(4コマエッセイスト、自然派菓子工房「ぼっちり堂オーナー」：大阪生まれ。表現×社会×仕事が進み合った自分ならではのモデルを作ろうと、21歳の時、京都郊外のお寺を借りて田舎暮らしをスタート。その後出産を機に夫の故郷高知県嶺北地方に移住。田舎暮らしと子育て。悩みながら成長して作っていく新しいライフスタイルについてお話しします。

申込 氏名、TEL、同伴者、参加希望日、講演会、ティータイムへの参加の有無を記入していただき、郵送・電話・FAX・メールのいずれかでご連絡ください。

問合せ 豊田市環境学習施設eco-T事務局
〒470-1202愛知県豊田市渡刈町大明神39-3 渡刈クリーンセンター内TEL:0565-26-8058 FAX:0565-26-8068
E-mail:info@eco-toyota.com【休館日】毎週月曜(祝日の場合は翌日)

市民発まちづくりシン展事業

9月21日(月)22日(火)北三河芸農祭

時間 11:00~18:00(※会場内テントサイトは21日21:00まで)

場所 旭高原元気村

内容 【山の上音楽祭】ゲスト/加藤登紀子さん
【北三河生活市場】多様な手の間生活市
【北三河クラフトマーケット】多彩な手の技マーケット
【間伐材遊園地】木と人の創造遊園地

主催 北三河芸農祭実行委員会

その他 出店参加者/協力スタッフ募集中！
お問合せ連絡先 竹内まで(e-mail: takenoya@hm10.aitai.ne.jp)
※情報はフェイスブックページでも更新しています。
『北三河芸農祭』で検索してください。

仕事

「仕事」とは何か。そう問われた時あなたはこう答えるだろうか。自分なりに考えてみた。

「人が豊かに暮らすために課題を解決すること」が仕事であり、人は仕事をするために生きていると言ってもいいかもしれない。課題解決に対価を求める仕事を「ビジネス」、対価を求めない仕事を「務め、お役、CSR、ボランティア」、継続性を担保するために少しだけ対価を求める仕事は「ソーシャルビジネス」と自分流に分類している。家事や子育て、自給野菜づくりも務めであり、子どもは存在すること自体が務めであり仕事である。人を貶め、傷つける詐欺や兵器産業はもちろん仕事とは言えず、経済のからくりから利潤を生むことを仕事というか甚だ疑問である。

人は常に豊かさを求めるから仕事は永遠に無くなりはないが、常に変化し続ける。20年前にauショップの店員やスマホアプリのデザイナーなどという仕事はなかった。一方、消えていった仕事も数知れない。今の仕事は20年後もあるとは限らないと言ふことである。

仕事は、豊かさの「ものさし」ともにある。人が何を求めているか、その「ものさし」如何で解決すべき課題も仕事も変わる。拡大し成長する社会から縮小し成熟する社会への移行に伴って豊かさの「ものさし」も変化し、課題解決のための仕事も変化する。

ミライの仕事の種が、おいでん・さんそんセンターの周りに散らばっている気がする。



鈴木辰吉

豊田市 企画政策部 企画課

おいでん・さんそんセンター

MAIL:sanson-center@city.toyota.aichi.jp

おいでん・さんそんセンター

検索

〒444-2424 豊田市足助町宮ノ後26-2(足助支所2階)

TEL:0565-62-0610(直通) FAX:0565-62-0614

開所時間:午前8時30分~午後5時(土日祝日・年末年始除く)

「決められた働き方に自分を合わせる」のが当たり前—そんな社会に—石を投じる『ミライの職業訓練校』が8月8日に開校しました。『やりたいことだけやって暮らす、やるべきことだけやって暮らす、働くことが愛になる暮らし』をモットーに、地域スモールビジネス研究会が事務局を務めています。

『何をどう学ぶのか、準備していない』『職業訓練校』職業訓練校校といえ、

「失業中、求職中の方の再就職に役立つスキルを提供し、事務系、情報、通信系などのカリキュラムが組まれている」というイメージが一般的だと思います。しかし『ミライの職業訓練校』では「何をどう学ぶのかは準備していない」「事務局がお膳立てするものはない」という無責任とも取れるような驚きのスタイルではじまりました。

名古屋大学大学院教授であり、ミライの職業訓練校の校長である高野雅夫さんはそのスタイルについてこう語っています。



ミライの職業訓練校開校！
1日目の様子をレポートします！



校長の高野雅夫氏

「効率のよさを追求してきた成長型社会が行き詰っている今の社会で、そのままのやり方を続けていてはダメ。カリキュラムに沿って新しい道は切り開けないです。受講者のみなさんが山里に集まることで、自分がやってみたいと思っていることが人と人の縁で可能になっていきます。新しい働き方を模索する中で、たった一つ確かなことは『人ではできない。徹底的に対話することが有効だ』ということです。受講者の皆さん自身が企画者で、ミライの職業訓練校を今までにない新しい場にしていこう当事者なんです。」

8月8日に20名の受講者で開校

そんな新しすぎるコンセプトで、受講生が集まるの？と思われる方もいるかもしれませんが、新



20名が参加

しい働き方を模索していたり、田舎への移住を希望している20名の受講生が参加表明をし、8月8日に開校となりました。

8月10月の3か月が基礎コースで、1か月に2回、計6回。その後3か月の実践コースが予定されています。実践コースで受講者は『学び場企画』というプロジェクトを個人、またはグループで実践します。基礎コースで、受講者はお互いに対話することによってそれぞれの生きる理念を明らかにし、社会の中で何をやっていきたいのかを徹底的に深め、『学び場企画』のプロジェクトを企画していきます。コースのグラドルとして『自分を否定しない』『他人を否定しない』『人とつながる』『学び場をお互いに作る』が事務局から示され、受講生はこれらを心構えとして参加します。また、高野校長からは『普通の職業訓練校をイメージして来られた方がもしいたら、気の毒なので、そういう方は途中で抜けていただくことは、次へのステップにつながるプラスの要素になる』といいます。自分史を書くこと自体、なぜか、もやもやが出てきたのか、歴史的プロセスを振り返ることになるそうです。

一人当たり発表5分、質疑2分×18人、合計2



自分史の発表風景

もやもやが何より大事

受講者のつながりの中で、新しい働き方を作っていくため、まずはお互いがなぜミライの職業訓練校に参加しているのかを知らうということ、自分史のまとめと発表からはじまりました。事務局から『自分史の中に、もやもやしていることを必ず入れてください。』と説明がありました。ミライの職業訓練校では、もやもやを何より大事にしているそうです。一般的に『もやもやしている』といえ、ネガティブに捉えられがちですが、ミライの職業訓練校では『もやもや』を整理することは、次へのステップにつながるプラスの要素になる』といいます。自分史を書くこと自体、なぜか、もやもやが出てきたのか、歴史的プロセスを振り返ることになるそうです。



3日間限定で皆志寮という名前になりました

市民発「まちづくり」展事業 「みんなでつくろう！ドミタウン」

学生たちの面倒見の良さが 活かされたプログラム

8月24日(月)、旭地区笹戸町で、「みんなでつくろう！ドミタウン」が始まりました。

ドミタウンとは、ドミトリ（寮）とタウン（まち）を合わせた言葉。豊田高専の学生が、笹戸の方々の協力のもと、小学生を対象に、寮生活をベースにした自然体験

時間ほどの自分史の発表がありました。「住んでいる人が変わらない」と地域は変わらない「新しいライフスタイルを模索したい」「ルールとゴールを決めて横並びでよいドン」最後は高野校長のまとめの教育現場にもやもやし

「受講者のHさんから大すところ。」ミライの職業訓練校は、受講生と事務局が一緒に作り上げていく場所。初日にキープレーズが受講生の口から出てくることに、今後の可能性を感じます。

を実施する企画です。「市民発「まちづくり」展事業」の実施事業の一つです。

24日から3日間4～6年生の小学生延べ33人が、1泊2日に参加しました。拠点、旧旅館施設。この3日間は「皆志寮」という名前になりました。



旭

ASAHI

まずは、開寮式で幕開け。畑に行つて、学生たちが地元の方の助けを借りながら作った野菜を収穫。お昼はバーベキューです。

午後には山散策。山の中を探検しました。夕飯は、学生たちが造った石窯で、ピザを焼きました。生地をのばしてトッピングしたら、窯で焼いてもらいます。バナナとはちみつのデザートピザを作る子もいました。

近くの旅館とつやの温泉に入ったあとは、星室観察とお勉強タイムもあります（宿題持参）。お兄さんお姉さんがみてるので、楽しく勉強できるかな？これは、寮の日課だそうです。夜の点呼や、朝の体操も、同じく寮の日課。

寮の生活をベースにしたドミタウン。学生たちの面倒見の良さが活かされたプログラムになりました。

芳友町の万燈まつり

男子児童の勇壮な姿に 心が揺さぶられます

8月14日(金)、「芳友町の万燈祭り」が開催されました。100年以上は続いているといわれる芳友町地区の火振り祭り。小中学生の男子児童が主役のお祭りですが、地域の子どもの数が少なく、おいでんさんさんセンターで参加児童を募集してお祭りのお手伝いをさせて頂きました。参加募集では女の子が興味を持ってくれる事も多いのですが、長年の伝統なので女子の参加は認められません。地元の女子もやりたい子はいらっしゃるのですが、地域でも賛否が分かれる所だそう。



たいまつを振り回し、無病息災を祈念

揺さぶられます。

万燈祭りのたいまつ振り回しが終わり、神明社の前の拝殿を3回廻つて額(がく)と呼ばれる行灯の奉納をします。額を持ち、「おっさい、おっさい、おっさい」と掛け声を掛けながら神明社へ登り降りします。

万燈祭りのたいまつを振り回し、神明社への額の奉納が終わった後に、公民館の前で盛大に花火を行います。爆竹が鳴り響き、打ち上げ花火が何十本と上がり、ナイアガラの滝まで出現します。

参加児童の中には小学校低学年の1・2年生もいますが、地元の子どもの小さい頃から見ているので平気で万燈を振り回します。それに比べ、他地域からの参加児童は恐がつて上手に回せない子もいます。来年はリベンジして欲しいですね。それでも、花火の方は積極的に参加していました。花火は女子も参加できます。



花火の最後にナイアガラの滝

集落応援隊研修会

刈払機(草刈り機)取扱 実践研修会&交流会

8月9日(日)、当センター主催の、集落活動応援事業の一環として「刈払機(草刈り機)取扱実践研修会&交流会」を実施しました。場所と講師は、稲武でブルーベリー栽培をされている株杉田組さんにご協力頂きました。当日は、豊田市・名古屋・東京都などから8名の方にご参加頂き、普段の集落応援活動では中々実施できない昼食を兼ねた交流会も行いました。

参加された半数の方は取扱初心者の方で、草刈り機の安全や使用方法について先生から指導を受けられ、圃場で実技を行いました。残りの半数の方は経験者で半日バリバリと圃場の草刈りを行って頂きました。



刈払機の取り扱いを学ぶ参加者

研修を受けられた方からは「研修を受けてとてもよい機会だった、早く集落応援活動に参加したい」と今後の意欲を示して頂きました。また、ご協力頂いた杉田組さんからは、「今がブルーベリー栽培の繁忙期で、予想以上の範囲で草刈りをしてもいい大変助かった。ブルーベリーの事も知ってもらえて嬉しい」と感想を頂きました。

今回の研修会&交流会の成果を今後の活動に結び付けられるようセンターとして取り組んで参りたいと思います。皆様、暑い中での研修にご参加頂きました。今後もご協力をお願いいたします。



実際の作業の様子を見学



このマークがついている記事はおいでん・さんそんセンターが関わっています。